時代の移り変わりと見る美人の変化

１年２組

【動機と仮説】

私が、美人の変化について調べようと思った理由は、歴史の教科書で江戸時代の見返り美人図などの美人がを見たときに、江戸時代の美人と現代の美人では見た目に大きく差があることが昔から気になっていて、いつ、どのように美人の基準が変わっていったのかしりたいと思ったからです。

美人の基準がいつ変わっていったのかという疑問について、私は明治時代あたりから変化していったのではないかという仮説を立てました。なぜなら、私は美人の変化について、外国との関わりが関係しているのではないかと考えているからです。江戸時代まで鎖国をしていた日本では、鎖国が終わると、服や建造物などで西洋の文化が流行し、それらが街中に溢れかえりました。そうして流行が変化すると同時に、美人のあり方も変わっていったのだと考えました。

【調査】

〈時代ごとの美人の顔立ちの変化〉

現在の日本では、美人といえば目が大きく、小顔で、鼻が高いという印象を持ちます。では、この印象はどの時代から似たようなものになるのでしょうか。

平安時代から比べていきましょう。平安時代での美人の基準は、

・切れ長の細い目
・キメの細かい白い肌
・ふっくらした頬
・サラサラした艶のある黒髪
・体型もふくよか
・大きな顔
・鼻筋が通った小さな鼻
・おしとやかな口（おちょぼ口）

でした。平安時代といえば、世界３大美女として語り継がれている小野小町（右図）が有名です。キメの細かい白い肌やサラサラした艶のある髪などは現代でも好かれそうですが、現代の美人にはみられない特徴が多くみられます。平安時代の美人と現代の美人の差は大きいといえるでしょう。

次に、江戸時代の美人の基準についてです。江戸時代のびじんには、

・色白でキメの細かい肌
・細面
・小さめの口
・富士額

・涼し気な目元
・鼻筋が通っている
・黒髪
という特徴がありました。右図は、喜多川歌麿が描いた美人画です。平安時代からは、輪郭が細くなったこと以外の変化はあまりみられないという印象です。江戸時代の美人も、現代の美人とは大きな差があります。

次に、明治時代の美人です。この頃は、

・しなやかな容姿
・均整の取れたうりざねがお（中高でやや面長な顔）
が美人だと言われるようになりました。この明治時代の美人の中で、圧倒的な人気を博しているのは、陸奥宗光の妻である陸奥亮子（右図）です。これまでの時代の美人よりも彫りが深く、はっきりとした顔立ちで、現代でも好まれそうな女性です。

私が仮説した通り、江戸時代から明治時代にかけて人々に好まれる美人のあり方は大きく変化したといえます。その理由は、やはり西洋文化の流行にあったようです。西洋文化が日本に取り入れられ、人々は和服より洋服を着るようになりました。その結果、それまでの日本美人より、彫りの深い西洋人のような顔立ちのほうが洋服が似合うので、美しいとされたようです。

また、この頃になると、顔立ちだけでなく表情にも変化が現れました。江戸時代まで鎖国をしていた日本に来た外国人は、日本人の表情の乏しさについて、数々のコメントを残しています。今でこそ表情がころころと変わる人は愛らしくて良い印象を持たれる傾向にありますが、それまでの日本の上層社会は、慎み深さを重要視し、喜怒哀楽がそのまま顔に出ることを嫌っていました。そのため、日本にとって表情は下級階級にのみふさわしいとされていました。しかし、この考え方は西洋人との関わりによって次第に消えていきます。とはいえ、現在でも日本で生まれて日本で育った私からすると、やはり外国人には表情やリアクションがオーバーだと感じることがあります。それは明治より前から変わっていないのかもしれません。

〈美人の扱われ方の変化〉

現在は、美人とそうでない人のことについて、学校で習ったりはしませんが、明治期はそうではありませんでした。美人罪悪論という考えがあり、学校で、「美人はその美しさに甘えて堕落しやすいが、醜女は才能が身に付きやすい」といった意味のことを教えられていたそうです。今からでは考えられない教えです。明治４１年に、末弘ヒロ子という16歳の学習院の女学生が、兄に勝手に美人コンテストに応募され、しかも優勝してしまうということがあり、学習院を退学になってしまいました。また、美人は不吉だと思われることもあったそうです。

【考察】

私は、美人が変化していったのは外国との関わりが大きく関係していると仮説を立てましたが、違う考えをもった人もいます。井上章一著の美人論という本には、産業と関連付けられていました。つまり、美人が変化していったのは、産業を発展させるためだという考えです。もしもずっと平安時代の美人のような容姿だけが美人だとされれば、口の大きな女性などは美しくなることを諦めてしまい、それ以上の化粧品などの産業の発展は見込めません。しかし、口の大きな女性も美人だということにすれば、美人になれる可能性が出てきた女性たちは美しくなろうと努力します。それが産業の発展に繋がるため、化粧品などの産業の関係者が美人の幅を広げたのだという考え方です。この考えが正しければ、これからも美人の幅は広がり続け、将来の日本は今よりもっと多様な美で溢れているでしょう。もしかしたら、男性も女性も全員化粧をするような世の中に

なるかもしれませんし、逆に化粧の文化が弱まるかもしれません。これからの変化が楽しみですね。

【まとめ】

　美人の特徴は、平安時代から現代までで、
細長くきりっとした目　→大きな目
小さい鼻　　→高い鼻
大きな顔　　→小さな顔
ふくよかな体型　　→スリムな体型
一重まぶた　　→二重まぶた
短く太い眉　　→細めの眉
という感じに変化しました。しかし、流行は回るとも言いますし、これから多様な美が認められる世の中になることが予想されます。「女性は皆美しい」が現実になることも近いかもしれませんね。自分自身、ひとつの美にこだわらず、柔らかい考え方でいろいろな美しさを
認めていきたいと思います。みんながそういう考え方をすれば、今よりもっと窮屈に感じることは減り、多くの人が生活しやすくなる上、地球によりたくさんの色が溢れ、生活が楽しくなり、豊かになっていくと思います。

【参考文献】

美人論（井上章一　朝日文芸文庫）